

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立鯉江幼稚園

令和 7 年 3 月

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

- 子どもたちは、自分の身を守ろうとする意識がもてるようになってきている。一方で、今年度も新入園児を迎えていることから、発達段階を踏まえ一つ一つの積み重ねが必要である。消防署や警察署等の関係諸機関とも連携をもち、教職員も意識を高め、引き続き子どもたちが自ら安全について意識できるよう計画的に安全啓発を行いたい。
- 未就園児や地域の方と関わる機会も増え、交流して様々な人に親しみを感じたり、見守られていることの嬉しさや感謝の思いを感じたりしている。これからも、子どもたちが様々な人と関わり、遊びの中で自分の思いや考えを伝え合い、心の交流をして思いやりの心が育まれるように取り組んでいきたい。
- 基本的生活習慣について、幼稚園の果たす役割は年々大きくなっている。保護者アンケートから、基本的生活習慣の自立に向けての進め方について悩みを抱える声も聞かれた。保護者に子どもの育ちを伝え、連携しながら子どもの自立心を育て主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付けていけるように取り組む。
- 就学前教育カリキュラム改訂版や新幼稚園教育要領を活用しながら、本園の教育課程を見直し、一人一人の子どもの実態に応じた保育を展開してきた。子どもたちが心を動かして、主体的に遊べるよう、園内の環境の工夫や、教材研究、園内研究会等を実施する。また、引き続き、保護者や地域に子どもの育ちや教育内容が伝わるように、写真等も活用し、教育の可視化に努め、分かりやすい発信となるよう取り組む。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが、ルールやきまりの大切さに気づき、守れるように保育を行っていますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、クラスの友達や異年齢友達、地域の人との関わりを通して、思いやりの心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。
- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、基本的な生活習慣が身に付くように、取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子どもの育ちや教育内容を分かりやすく知らせていますか」の項目について肯定的な回答の割合を85%以上にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが、ルールやきまりの大切さに気づき、守れるように保育を行っていますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、クラスの友達や異年齢友達、地域の人との関わりを通して、思いやりの心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、基本的な生活習慣が身に付くように、取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子どもの育ちや教育内容を分かりやすく知らせていますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。

3. 本年度の自己評価の総括

今年度は、大阪市立鯉江幼稚園が創立100周年を迎える節目の年であった。周年行事に向けて幼稚園、保護者、地域の方々等、様々な人とのふれ合いを大切に、取り組んできたことで、保護者の理解や教育への意識も高まり、年度末アンケートの結果で目標を上回る肯定的回答の割合を得ることができた。

「安心・安全な教育の推進」では、計画的に避難訓練や安全指導を行うだけでなく、子どもの実態に合わせて内容を検討して実施することで教職員の安全意識の向上にもつながった。また、異年齢活動や、地域の方々との関わり方を見直し取り組んできた。創立100周年という特別な年であり、地域との関わりやつながりを多く感じることができた1年だった。地域からも大切にされていることを感じ、親しみをもつことで心の交流にもつながり、安定して過ごせ、他者に対する思いやりの心も育った。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、園内環境の工夫や教材研究、園内研究会等実施してきた。教職員が、子どものありのままの姿を受け止め、子どもの実態や一人一人に応じた働きかけを工夫してきたことで、子どもが心を動かして主体的に遊ぶ姿につながった。保健面では、基本的な生活習慣が身につくように、実態に合わせて保健指導を行ったり、教職員で連携して取り組んだりすることができた。また、保護者アンケートも実施し、家でも様子や保健指導に求めていること等を共通理解し、生活に必要な習慣を身に付けていけるよう一緒に取り組むことができたが、保健指導の情報発信の仕方等の課題も見られたので、次年度に生かしていきたい。

「学びを支える教育環境の充実」では、子どもの育ちや教育内容を口頭だけでなく、写真・手紙・ホームページ等で分かりやすく伝えることを意識したことで、保護者や地域の方と一緒に、子どもたちの成長を見守ることができた。子どもたちはありのままの姿を認められることで、伸び伸びと成長することにつながった。

今後も鯉江幼稚園の特色を生かし、丁寧な幼児理解に努め、教育内容を充実させ、生きる力を持った子どもを育てる教職員の資質向上を図っていきたい。また、保護者や地域との連携の仕方を工夫し、教育内容の理解が深まるように、分かりやすい情報発信の在り方を考え行っていきたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが、ルールやきまりの大切さに気付き、守れるように保育を行っていますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、クラスの友達や異年齢友達、地域の人との関わりを通して、思いやりの心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 安全に対する話し合いや指導、避難訓練を行い、ルールや大切さに気付き、自分の身を自分で守ろうとする気持ちを育む。 <hr/> 指標 ・子ども自身が考えて行動できるよう、学校安全計画に基づき、安全に対する話し合いや指導の機会を月2回以上設ける。 ・避難訓練や交通安全指導を月1回以上行う。	A
取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】 身の回りのいろいろな人に関心をもたせ、友達との関わりの中で、思いやりの心を育む。 <hr/> 指標 ・月に1回以上、子どもの実態や季節に応じた内容を工夫しながら、異年齢の友達と交流できるようにする。 ・地域との交流内容を見直し、実施する。	B

年度評価の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容① 安全教育年間計画に基づき、安全に対する話し合いや指導を以下のように行った。 <安全指導>		
4月	・園内の安全な生活 5歳児：園外保育の安全な歩き方	・廊下やテラスは歩くことや、階段の昇り降りの仕方や保育室での安全な過ごし方などに気付けるよう話し合いを重ねた。 ・歩道を歩く時の約束（前の人と間を開けない、周りや信号をよく見る等）と、公共のマナーを確認した。
5月	・遊具、用具の安全な使い方 4歳児：園外保育の安全な歩き方	・園庭遊具での安全な遊び方を、教師が実際に動きを示しながら子どもたちと確認することで、遊具の正しい使い方を意識して守る子どもが増えた。 ・はさみやテープカッター台などの用具の扱い方をその都度丁寧に知らせた。 ・歩道を歩く時の約束（前の人と間を開けない、周りや信号をよく見る等）と、公共のマナーを事前に知らせ、園庭で実際に手をつない

		で歩く活動を行った。園外散歩時には、友達と約束事を知らせ合う姿が見られた。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・雨具の扱い方、始末の仕方 ・水遊びやプールでの決まりや約束 	<ul style="list-style-type: none"> ・傘の開閉時の注意や傘のネームバンド巻き方などを、雨の日の登降園時等機会をとらえて指導を行った。また、濡れた服や鞆などの始末の仕方でも知らせた。 ・約束を守って安全にプール遊びが楽しめるよう、プール開きで危険行為を知らせたり、プールサイドや入水時の安全行動を教師が実際にやって見せたりすることで注意喚起をおこなった。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・プールでの安全な遊び方 ・熱中症予防について 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱いだ服の整頓、体の拭き方、プールサイドや脱衣場を走らないことなど、その都度全体や個別に声をかけ知らせた。 ・熱中症について知らせ、室内外を問わずこまめな水分補給をする、戸外では帽子をかぶる、日陰で遊ぶなど子どもたちが自分で意識できるようにした。
8・9月	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい生活リズムの整え方 ・熱中症予防について 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムの大切さを保護者に啓発するとともに、園でも無理なく日常の保育生活のリズムが取り戻せるよう全体や個別に対応をおこなった。 ・室内外問わずこまめな水分補給、戸外で帽子をかぶること、日陰で遊ぶことに加え、エアコンの効いた保育室でこまめに涼をとること等を継続して伝えた。子ども自身も気付いて行う場面も見られるようになった。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・運動用具の安全な使い方 ・集団で行動するときの約束 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会で使う道具の扱い方や安全扱い方を知らせ守るよう声を掛けた。 ・園外保育に向けて、公共の場での約束やマナーを知らせたり、活動中にも気付けるような言葉かけをしたりした。すると、園外保育に出かけた際に友達同士でルールを知らせ合う姿も見られた。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具、教材、用具の扱い方、片付け方 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展や周年行事装飾などの製作活動の中で、正しいはさみやのりの扱い方を再確認するとともに、新たにボンドやガムテープなどの使用方法を知らせ、安全に使用できるようにした。 ・各家庭から持参した素材は分類できるよう整理箱を準備し、各自で仕分けすることで整理整頓を意識する姿が見られた。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・コマや凧の遊び方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ様子を見守りながら、その都度声かけを行ってきたことで、コマは投げる方向に注意したり、友達が回したコマを勝手に触らないなど約束を守ろうとしたりする姿が見られた。凧はタオルなどで首を守ることや、間隔をあけて一定方向に向かって走るなどのルールを守って遊ぶことができた。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・体をほぐしてから戸外で遊ぶ ・遊具、教材、用具の扱い方、片付け方の再確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での遊びのはじめに、柔軟体操やマラソンをみんなでを行い体を温めてから遊んだ。走る方向についてや「押さない」などのルールを知り、守る機会にもなった。 ・生活発表会の道具を製作する際に、はさみの扱い方を再確認した。はさみを運ぶ際の持ち方や、使うときは座るなど自分たちで意識する姿が見られた。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・劇遊びの道具の扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同の道具も個人の道具も丁寧に扱い、活動の際には端に並べ、終わった決められた場所に戻すなど、その都度声をかけることで意

	・園外保育の約束	<p>識できるようになった。</p> <p>・キッズプラザへの園外保育では、ホームや電車内では静かにすることや、順番に並んで待つ、館内は走らないなどの公共マナーを知らせた。2学期からの積み重ねもあり楽しく過ごしながらも、子どもたち同士で声を掛け合っていた。</p>
3月	・春休みの安全な生活について	<p>・子どもだけで遊びに行かないことや、外出時もお家の人と離れて行動することのないよう、改めて啓発したい。</p>

＜避難訓練・交通安全指導＞

4月	避難訓練（火災）	<p>・非常ベルの音を知らせたり、5歳児の避難する様子を4歳児（新入園児）に見せたりすることで、安心感をもたせ、避難時の行動や避難訓練の意味を知らせた。</p>
5月	避難訓練 （地震・引き渡し訓練）	<p>・緊急地震速報の音や、地震が起こった際の行動を知らせた後、実際に緊急地震速報の音を聞いて、近くにいる職員の指示のもと防災頭巾をかぶって園庭に避難した。その後保護者にメール配信をし、引き渡し訓練を行った。</p>
6月	不審者侵入時の対応 （教職員体制の 確認・避難）	<p>・不審者の侵入経路など、いろいろな場面を想定しながら、教職員間で対応の仕方や子どもの誘導、避難経路など共通理解した後、不審者侵入の訓練を行った。子どもたちは不審者侵入時の合図をその時は理解するも浸透するには、繰り返しの訓練が必要である。</p>
7月	交通安全指導 （城東警察署） （区役所） 避難訓練（火災） （一時預かり保育）	<p>・城東警察署、区役所の方に来ていただき交通安全指導を行った。簡易横断歩道を作っていただき、城東区マスコットキャラクターと一緒に楽しく横断歩道の渡り方を学ぶことができた。</p> <p>・2階の預かり保育の保育室から避難した。いつもの1階保育室からの避難と異なり、階段の使用もあったが、スムーズに取り組めた。</p>
8・9月	避難訓練（地震・津波） （2次避難鯉江小学校）	<p>・地震後、大津波警報が発令された想定で避難訓練を行った。園庭に避難した後、鯉江小学校3階まで避難した。津波時の避難の仕方を子どもたちと確認することができた。</p>
10月	安全指導（園外保育）	<p>・園外に出る前に事前指導として、道路の歩き方や駅のホームでの約束やマナーなど子どもに聞き出しながら確認を行ったことで、子ども自身が意識してルールやマナーを守って参加する姿が多々見られた。</p>
12月	<p>・保護者による降園指導</p> <p>冬休みの防犯指導・交通安全指導</p> <p>避難訓練（地震）</p>	<p>・PTA生活指導委員が中心となって、降園時に安全旗を持って交差点で安全誘導を行ったことで、交差点での左右確認や道路に飛び出さないことなどを、保護者とともに確認することができた。</p> <p>・2学期終業式で「買い物中におうちの人から離れない」「知らない人についていけない」「連れていかれそうになったら大声を出す」「道路は飛び出さず、おうちの人と手をつないで歩く」などを職員が寸劇をして、子どもだけでなく、保護者にも分かりやすく知らせることができた。</p> <p>・終業式の最後に、災害時の「お（さない）・は（しらない）・し（やべらない）・も（どらない）」を子どもと確認し、地震速報が鳴ったら防災頭巾を被り、身を低くして体を守る子どもの様子を、保護者に見ていただき、家庭での防災や避難についても考える機会につ</p>

	避難訓練（地震） （一時預かり保育）	<p>なげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育活動中の避難訓練であった。指導員の指示に従って2階から慌てず、落ち着いて避難することができた。
1月	避難訓練（地震）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前日に避難訓練の話をして、当日は予告なしで訓練を行った。突然の警報音に驚く子どももいたが、落ち着いて園庭に避難できた。被害の状況によっては津波からの二次避難があることも伝え、その際の避難場所が鯉江小学校であることも再確認できた。
2月	避難訓練（火災）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予告なしで遊戯室で2クラス合同で遊んでいる際に、非常ベルが鳴り、放送での指示で近くにいる先生のそばに集まって避難した。PTA実行委員会もあり、保護者も一緒に園庭へ避難していただき、災害はいつどこで起こるかわからないことを一緒に共有した。
3月	就学に向けての 交通安全・防犯指導 避難訓練（地震）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全パトロールの方に来ていただき、就学に向けて登下校時に気を付けなくてはならないことを指導いただいた。 ・ 東日本大震災にも触れ、大きな地震が来た時には二次避難があることや、慌てずに行動することを再確認していきたい。

取組内容①について、年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが、ルールや決まりを大切に気付き、守れるように保育を行っていますか」の項目についての回答は「そう思う90%」「だいたいそう思う8%」となり肯定的な回答の割合は98%であった。

取組内容②

身の回りのいろいろな人に関心をもたせ、友達との関わりの中で思いやりの心を育むため、次のことを行った。

- ・ 月に1回以上、子どもの実態や季節に応じた内容を工夫しながら、異年齢の友達と交流できるようにした。

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園に慣れると共に、安定して過ごすことができるよう、5歳児が4歳児のお世話をしたり、歌や手遊びを一緒にしたりする時間を多くもった。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの日の集い等の集会を一緒にしたり、ふれあい遊びをしたり、歌を聞かせてもらったりする時間を、機会を捉えてつくった。手伝いだけではなく、一緒に遊ぶ時間を多くもったことで、子ども同士の関係も少しずつできていった。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4、5歳児で手をつなぎ、鯉江北公園まで遊びに出かけた。5歳児は年長児の自覚をもち、4歳児を優しくリードする姿が見られた。4歳児も安心して参加することができた。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール遊びを4、5歳児合同で入る機会を多くもった。お互いの頑張りを認めたり、意欲をもってプール遊びに取り組んだりする姿が見られた。 ・ 保護者主催の縁日ごっこでは、なーちゃんクラブ（未就園児）、4、5歳児が一緒に遊んだ。自分たちのために、準備をしたり店番をしたり、片づけたりしてくださる姿を見て、感謝の気持ちをもつことができた。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ まーくんクラブ（未就学児）の友達と4歳児が保育室で一緒に遊んだり、5歳児と一緒に園庭で遊んだりした。4歳児は部屋に来てもらったことで、年下の友達に興味をもち優しい言葉をかけていた。5歳児はまーくんクラブの準備から見送りまで積極的に行う等して5歳児としての自覚も育っていた。 ・ 創立記念日は、なーちゃんクラブ（未就園児クラス）と、4・5歳児が一緒にお祝いをした。一緒に集会に参加したことで、鯉江幼稚園の大切な仲間という意識が育まれた。

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・100周年記念運動会では、園児だけではなく、未就園児、小学生、保護者、来賓など、たくさんの方々のプログラムがあり、親しみをもったり、憧れの気持ちをもったりすることができた。運動会終了後には、異年齢のプログラムを一緒にしたり、好きな遊びの時間にリレーの仕方を教えあったりして、一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。 ・園外保育に出かける時は、異年齢のペア、グループを決めて取り組んだことで5歳児は4歳児に対して責任をもって関わろうとする姿が見られた。また、4歳児は、5歳児に対して憧れの気持ちをもつことができ、互いに思いやる心が育ちつつあった。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児が参加する「うたごえひびけなにわっこ」で発表する歌を聞かせてもらう機会をもったことで、4歳児が5歳児に対して憧れの気持ちをもつことができた。 ・作品展では、未就園児、4歳児、5歳児とそれぞれの作品をつくり、飾ったものを見合ったことで、自分の作品はもちろん、友達や異年齢の作品の素晴らしいところを見つけて伝え合う姿も見られた。 ・100周年記念行事があった。鯉江幼稚園の園児として心をつなげて取り組む中で、仲間意識が生まれた。また、たくさんのお客様と一緒に祝えたことで、様々な関係者に親しみをもつことができた。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・な一ちゃんクラブ（未就園児）も誘い、異年齢で、マラソンや体操をした。子どもたちなりに年下の友達を気遣ったり、一緒に遊ぶことを楽しんだりする姿が見られた。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・劇遊びの見合いっこをしたり、生活発表会のオープニングやフィナーレの活動を一緒にしたりした。異年齢の友達の劇遊びに刺激を受けて、意欲的になったり、あこがれの気持ちをもったりしてより劇遊びや発表会の活動を楽しむことにつながった。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会では、5歳児も4歳児も伸び伸びと取り組む姿を保護者に見ていただいた。たくさんの人に認めてもらったことで、活動に自信をもち、後日に行った未就園児対象のミニ生活発表会でも、楽しんで発表する姿が見られた。その後も、異年齢で劇遊びを行う等交流活動が続いた。 ・ジャガイモ植えやお別れ園外保育等、異年齢でペアを組み、一緒に活動する時間を多くもつことで、子ども同士が親しみをもち、異年齢の友達に話しかけたり、教えたりする姿が見られた。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・4歳児が5歳児に感謝の気持ちをもち、お別れ会に向けて、内容を考えたり、心を込めてプレゼントをつくったりした。 ・修了式に向けての活動を、5歳児と4歳児が一緒に行うことで、双方の刺激となり、それぞれが頑張ろうと思えるようになってきた。 ・新入園児1日入園に向け、4歳児も、もうすぐ年長になるとの自覚をもち、活動することができている。

- ・年間を通して、教職員が異年齢活動や関わりを意識してもつことで、子どもたちの心の交流につながった。次年度は、普段からの自然な交流ができるようにどのようにすればよいかを考え異年齢の活動が深まるようにしたい。

<地域との交流内容>

- ・5月、蒲生中学校の職場体験では、中学生と一緒に遊んだり、つくったりするなどした。中学生にやさしく言葉をかけてもらい、親しみを感じていた。11月横堤中学校、鯉江中学校の職場体験では、積極的に行事の活動に参加してもらい、園児と中学生が近くで触れ合うことができた。鯉江中学校の最終日降園時には校長先生もかけつけてくださり、中学校に興味や関心をもつことができた。職場体験の中に、本園の卒園児がいたことから保護者も親しみを感じ、こんなに大きく成長してと感激する姿

も見られた。

- ・ 6月と9月に城東絵本の会の方が来られ、『お話の会』を実施した。いろいろな種類の話をしていただくだけではなく、園児からも肩たたきをプレゼントするなど、触れ合って交流を行った。
- ・ 昨年度に引き続き、5歳児は、図書館訪問、消防署への笹飾りの配布等で、地域の様々な人と関わる機会があった。日頃のお礼を言ったり、会話をしたりするなど関わりを大切にすることで、地域の人に親しみをもつきっかけとなった。
- ・ 10月の創立100周年記念運動会では、園児だけではなく、未就園児、小学生、来賓、保護者など、様々な人と関わることができ、親しみや憧れの気持ちをもつことができた。
- ・ 1年を通して100周年記念式典に向け、胸花や横断幕、記念品の作成等、地域の方や保護者のご協力を得て進めていることを子どもたちに知らせたことで、感謝の気持ちや親しみをもつ機会になった。また、お越しいただけることを楽しみに感じ、丁寧に飾ったり準備したりするなど、相手を思いやる姿も見られるようになった。11月の周年行事で、たくさんのお客様にお越しいただき、一緒にお祝いしてもらい、子どもの姿を認めていただいたことで、園児も保護者も教職員も温かい気持ちやつながりを感じることができた。
- ・ 12月4歳児訪問事業では、区役所から保健師に来ていただき、風邪にまけない体づくりの話をしてもらった。行政とも連携して子どもたちを見守っていることを保護者に知らせる機会にもなった。
- ・ もちつきやお楽しみ会では、OB会やPTA会長のご協力を得て行事をすることができた。子どもたちが楽しみにしている行事が明るい雰囲気で行えることに、園児のみならず、保護者、教職員も感謝の気持ちをもつことにつながった。
- ・ OB会会長が、アルトサックスのコンサートを開いてくださった。聴くだけではなく、4歳児は手作り楽器、5歳児は歌と一緒に楽しむことができ、幼稚園のことを大切に思ってくくださる方との心の交流につながった。
- ・ 12月のたこあげは、園庭で楽しんだ後、鯉江小学校の校庭をお借りして、伸び伸びと行った。校長先生が、いつでも来ていいことを子どもに伝えて下さったり、小学生が幼稚園児に興味をもち覗きにきたり、小学校の遊具で遊ばせてもらったりしたことで、小学校に興味、関心をもつことにつながった。
- ・ 1月区PTAフェスタには、5歳児が城東幼稚園の5歳児と一緒に歌を歌った。会場にいた皆様が温かく見守ってくださっており、園児も保護者も温かい雰囲気の中、大舞台上で発表する経験をすることができた。
- ・ 2月の胸花製作では、コスモスプロジェクトの方々に教えていただきながら5歳児保護者が、子どもの胸花をつくった。保護者が困らないように、念入りに準備してきてくださり、保護者からも「おかげで、かわいいものができました」と喜ぶ声が聞かれた。
- ・ 3月就学直前に鯉江小学校1年生の授業の様子を5歳児が見せていただいた。また、学校紹介や昔遊びと一緒にさせてもらい、1年生の優しさを感じ安心感をもったり、就学に向けての期待が高まったりすることにつながった。また、地域安全パトロールの方に、就学前の安全啓発をしていただき、係りの方に親しみをもちながら話を聞いたり安全について確認したりすることができた。

今年度は100周年記念行事もあり、年間を通して、身の回りのいろいろな人と交流し関心をもたせることができた。幼稚園のこと、そして自分たちのことを大切に思ってくくださる方がたくさんいることを知り、園児たちも園児、異年齢の友達、保護者、地域の方々等、いろいろな方に親しみを持ち、思いやりの心が育つ結果につながったと思われる。

取組内容②について、年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、クラスの友達や異年齢友達、地域の人との関わりを通して、思いやりの心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目についての回答は「そう思う87%」「だいたいそう思う13%」となり肯定的な回答の割合は100%であった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・安全指導を行うと改善すること多いが、時間が経つと危険行動も再度見られるので、繰り返しの指導は今後必要である。
- ・幼稚園で行っている避難訓練等を保護者にも伝え、家庭での安全についても子どもと一緒に考えられるよう啓発していきたい。

取組内容②

- ・2クラスと少人数の園なので、普段の生活の中で、子ども同士がクラスの壁なく行き来し、自然な交流ができるよう次年度も教師間で意識していきたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り開く学力・体力の向上】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、基本的な生活習慣が身に付くように、取り組んでいますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】 子どもの興味や関心、発達を捉え、遊びを通して様々な経験ができるような教育内容を工夫する。	B
指標 ・就学前教育カリキュラム改訂版を活用し、環境構成や教師の教育的意図をもった働きかけについて協議する。（月2回以上） ・研究保育や教材研究を年10回以上行い、教師の資質向上を図る。	
取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】 基本的な生活習慣が身につくように家庭との連携をはかる。	A
指標 ・子どもの実態や時期に合わせた保健指導を月に2回実施する。 ・保健指導の内容が家庭で生かされているか、年間2回、保護者アンケートを行い、実態把握をする。 ・学期に1回、指導内容や指導後の子どもの様子を保護者に啓発する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① 子どもの興味・関心を探り、季節や実態に合わせて環境を整える。 ・新入進級児ともに、園生活に不安を感じる子どももいたので、普段の子どもたちの様子を教職員で共通理解し、虫に興味をもっている子どもには虫探しや虫の飼育、水が好きな子どもには水遊びや泥あそび、体を動かすのが好きな子どもは運動遊びやおにごっこ、スクーターなどの遊具、またその時期の自然を感じられるような色水遊びなど、子どもの興味や関心を探り、夢中になる遊びを見つけれられるよう環境を工夫した。教職員間で保育を振り返り協議することで、担任だけでは気付かなかった子どもの変容や育ちに、気付くことができた。 ・運動会に向けての取り組みについては、それぞれの学年の発達段階や興味のあるものなどを取り入れ、運動会へとつなげた。4歳児は友達や先生と一緒に虫になって遊ぶ中で体を存分に動かし、5歳児も少し難しいことに毎日チャレンジをしながら、友達と気持ちを合わせる楽しさを知り、それぞれの学年で友達との関係がより安定したり、深まったりした。 ・秋にはいろいろな素材に触れたり季節を感じたりして、かいたりつくったりする活動を楽しめるよう様々な素材を種類別に整理し、いつでも自由に使えるように環境を整えた。また、子どもたちのつくっている様子からどのような材料が必要かを教師間で話し合いながら環境の再構成をお行った。子どもたちは、様々な素材に触れ、自由な発想で、考えたり工夫しながら作品づくりを楽しみ、満足感や充実感を味わうことができた。 ・3学期には、クラスで親しんでいた絵本を題材に劇遊びをしたり、合奏をしたりすることを楽しみ、生活発表会へとつなげていった。4歳児は初めての劇遊びのため、お面や道具を先行してつくることで、お話の世界に親しめるよう工夫した。5歳児は子ども達同士で意見を出し合いなが

ら話の内容を考えたり、役割を決めたりする機会を設け、クラスみんなで遊びを進めていける楽しさを味わえるよう工夫した。活動する中で、担任だけでなく教師間で子どもたちそれぞれの様子や実態を伝え合い、それを次回の保育に繋げていくことで、子どもたち一人一人が自分なりの楽しさを感じることができた。

研究保育や教材研究を行い、教師の資質向上を図るために以下の取り組みを行った。

- ・ 6 月には指導要請、7 月、11 月、12 月（2 回）、1 月に園内研究保育を実施し、併せて教材研究も行った。就学前教育カリキュラムの知・徳・体の視点から、子どもの育ちや教師の教育的意図をもった働きかけを考え立案し、保育実践後に協議を行った。担任だけではなく、支えてくれる周囲の教職員のありがたさや、連携の大切さを感じる機会となった。また、子どもの実態を多面的に捉えることができ、新たな気づきを得ることができた。
- ・ 誕生会のプレゼント製作では、毎回「遊べるプレゼント」をテーマに担任も教材研究を行った。その時期の子どもたちの遊びや生活の流れ、興味・関心、教材の特性や活かし方を考えることで、子どもたちにとって楽しみになっていた。

5 月、6 月、9 月、11 月、2 月に実践記録、検討会を実施した。

- ・ 子どもの姿から、教師の働きかけや環境構成を子どもに合わせて工夫していくことの大切さを学んだ。また教職員間で話し合う機会をもつことで、子どもをいろいろな視点から、多面的に捉えることができ、子どもの育ちや学びについて深めることができた。
- ・ ドキュメンテーションを作成し、保護者に向けて子どもの育ちや学びを分かりやすく伝わるよう工夫したことで、教師自身も自身の保育を振り返る機会となり資質向上につながった。

子どもの実態に合わせて遊びを通して様々な経験ができるよう教育内容を工夫していくことで、いろいろな遊びに興味や関心をもって積極的に遊ぶ姿が多く見られるようになった。

取組内容①について、年度末の保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんでいますか」の項目についての回答は「そう思う 87%」「だいたいそう思う 13%」となり肯定的な回答の割合は 100%であった。

取組内容②

子どもの実態や時期に合わせた保健指導を月に 2 回実施した。

<保健指導>

4 月	手洗い・うがいについて	水道の使い方
5 月	健康診断について	昼食後の歯みがき指導
6 月	むし歯予防について	よく噛んで食べよう
7 月	熱中症に気をつけよう	こまめな水分補給の声かけ
9 月	がんばったけが・ざんねんなけが	歯科衛生士による歯と口の健康指導
10 月	目の健康について	和式トイレの使い方
11 月	排便について	心の健康
12 月	咳・くしゃみエチケットについて	手洗い・うがい
1 月	早寝早起きについて	トイレの使い方
2 月	3 色栄養について	昼食後の歯みがき指導
3 月	姿勢について	プライベートパーツについて

- ・ 5 月は健康診断を安心して受けられるよう、検診前日に子どもたちに事前指導を行った。実際に使用する器具を触ったり、検診内容を実際に再現しながら子どもたちに伝えたりすることで、「痛いことはしないんだ。」と不安感を除くことができた。
- ・ 本園では弁当後に歯みがきを行っているため、歯みがきの習慣が定着するまで顎模型を使用して歯みがき指導を行った。4 歳児は特に初めての園生活での昼食後の歯みがきであったため、歯のみがきだけでなく、歯ブラシの扱い方や口に入れたまま移動しないなどの指導も行った。5 歳児にも

改めて指導を行ったため、意識づけることができた。

- ・ 9月には運動会で体を動かす機会が多いため、けがの予防についての保健指導を行った。けがには一生懸命取り組んでいたことで起きたけがを『がんばったけが』、不注意やトラブルで起きたけがを『ざんねんなけが』の2種類あることを知らせ、いくつかの事例を出し、これはがんばったけがかざんねんなけがか考えさせた。そして、周りをよく見る・友達をふざけて押したり叩いたりしない・持っている物を振り回さないなど日常の中で少し意識することでざんねんなけがは減らせることを知らせた。指導の中で、「この時のけがはどっちのけがなんだろう？」などと積極的に発言し、自分たちで考える姿を見ることができた。
- ・ 10月は目の愛護デーにちなんで目の健康についての保健指導を行った。普段何気なく見たり触っている眉毛やまつ毛が目を守るためにどのような役割を果たしているのかについて話をした。保護者からも「ママ、知ってる？まつ毛ってね、涙ってね…と幼稚園で教えてもらったことをたくさん話してくれました」「テレビを見る時間を決めよう！と自分から提案してくれました」などの声を聞くことができた。
- ・ 11月は排便についての保健指導を行った。便の色や形で体調の変化がわかることや健康な便を出すためには、野菜などの食物繊維をよくとることや、出す時間を決めることなど規則正しい生活を送ることが大切であると話をした。指導後も便の模型を保健室前に掲示したことで、子どもが興味を持って教材に触れたり、子どもたち同士で指導内容について話したりする姿が見られた。
- ・ 12月は感染症が流行しやすい時期ということから、咳・くしゃみエチケットについて保健指導を行った。実際に咳とくしゃみの飛沫距離をリボンで表したものを子どもに引っ張ってもらおうと「こんなところまで飛んでくるんや！」と驚いていた。飛沫ができるだけ飛ばないように袖の肘あたりで覆ったり、マスクを着用したりと感染症予防をするよう呼びかけた。
また、今回の指導は園内研究保育と合わせて実施した。実際に指導している様子を見てもらうことで、子どもが集中して聞ける指導内容の量についてや、視覚的にわかる教材を用いることでより子どもの理解が深まるのではないかと話し合い、次回の指導につながるよき学びとなった。
- ・ 1月は早寝早起きについての保健指導を行った。夜9時までに寝ると夢の中でくじら列車に乗って遊ぶことができ、朝に到着すると成長につながるプレゼントがもらえるという内容を子どもたちに話し、実際にくじら切符を子どもたちに配布した。登園時間までにくじら切符を持って登園することができるとベルを鳴らしてくじらのアーチをくぐる期間を設けた。子どもたちからも「今日くじら切符入れられたよ」と嬉しそうにベルを鳴らして登園する姿が見られた。保護者からも「切符を入れることを楽しみにして幼稚園に来ています」「門から一人で保育室まで行けるようになりました」など指導を通して保護者と子どもが一緒に楽しく取り組み、生活面の意識が高まる機会となった。
- ・ 毎月の全体への指導だけでなく、トイレの使い方や手洗い・うがいの再確認なども適宜行うようにしている。

10月に保護者に向けて以下の2項目で保健活動に関するアンケートを配布した。

<保護者アンケート>

◎家庭で保健指導の内容について話している姿や取り組んでいる姿はありますか

「幼稚園で教えてもらった手洗いの歌を家でも歌いながらしっかりと洗う練習をしています」「保健指導があった日は、内容や気をつけなければならないこと等を家族に教えてくれています」

◎今後、ほけんだよりや保健指導で掲載してほしい・実施してほしい内容がありますか

「偏食が多いので困っている」

「ズボンをすべて下げて排泄しているところが就学に向けて直していきたい」

「朝の洗顔を嫌がる」

アンケートを介して、園で行っている保健指導の内容を家庭でも実践し、話していることが分かった。また、指導してほしい内容について、排泄・食事・清潔など基本的生活習慣の部分の指導をより丁寧に行うことを求められていることが分かった。また、プライベートゾーンや心に関する指導も行してほしいという声もあり、保護者の悩みや心配事も知ることができた。

2月にも保護者に向けて以下の2項目で保健活動に関するアンケートを配布した。

◎ご家庭で本園の保健指導の内容は活かされていると思いますか？

大変そう思う	70%
そう思う	27%
どちらとも言えない	3%
あまり思わない	0%

◎家庭で保健指導の内容について話している姿や取り組んでいる姿はありますか

「咳をするとどのぐらい飛沫が飛ぶのかを家族に話していました」

「夜、布団に行くのが遅くなりそうな時に「くじら列車行っちゃうよ」と一声かけると急いで寝室に行って一人で先に寝ています」

「最近では赤・緑・黄色の3色栄養のレンジャーを意識するようになり、「これ食べへん」と言う食材（特に野菜）も「緑レンジャーやもんな…」と少し悩んでからちょっとだけ食べるようになりました」

アンケートを介して、家庭でも保健指導の内容が活かされていることが分かった。今後も園内の指導だけでなく、家庭でも指導内容が継続されるよう保護者啓発に努めていきたい。

機会を捉えて保護者啓発を行った。

- ・1学期の終業式に子どもと保護者に向けて熱中症予防について保健指導を行った。普段の子どもたちが指導を受けている時の姿を見てもらったり、保護者に向けて夏休み中の暑さ対策について話したりする機会ができた。
- ・9月には大阪府歯科衛生師会の方に歯と口の健康についての話をしていただいた。子どもたちにはおやつを食べ方・噛むことについて・ブラッシング指導などをペープサートやパネルシアター等を用いて指導していただいた。ブラッシング指導では、実際に子どもたちが歯みがきをしている姿を参加した保護者の方に見ていただく機会もできた。子どもの指導後には、保護者に向けてむし歯になりやすい食べ物についてや、第一大臼歯の仕上げみがきについて講演をしていただいた。講演後の個別相談で、保護者からは「親子共々学びが多く、その後自宅での歯みがきは子どもたちも積極的に取り組んでくれるようになりました。」「大変ためになる内容で、おやつの内容を変えたり時間を気にしたりと親子で取り組んでいます。」などの声があった。
- ・保健指導後は、降園時に保護者に保健指導の内容や指導中の子どもたちの反応や様子を話している。また、実際に指導で使った教材を掲示することで保護者と子どもが指導内容について話をする機会を設けている。
- ・2学期の終業式に「ふゆやすみ せいかつしゅうかんかれんだー」に掲載している歯みがき、手洗い・うがい、うんこの項目について教材を見せながら、1学期から取り組んできた指導内容について話し、長期休業中も家庭で規則正しい生活や健康管理に取り組んでもらうよう、啓発を行った。

取組内容②について、年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、基本的生活習慣が身に付くように、取り組んでいますか」の項目についての回答は「そう思う98%」「だいたいそう思う2%」

となり肯定的な回答の割合は100%であった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・研究保育の実施が後期に偏っていたので、年度当初にバランスよく行っていけるように実施月を決めておく。

取組内容②

- ・来年度はより計画的に保健指導を行えるよう、年間計画を作成したり、毎月の職員会議の時に実施日を決めたりするなど工夫する。
- ・アンケートの結果を分析し、今後の保健指導に活かしていく。また、実施した保健指導の内容を保護者にも理解してもらえるように、降園時に教材を掲示し、指導内容や子どもたちの様子を伝えるなど啓発する。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子どもの育ちや教育内容を分かりやすく知らせていますか」の項目について肯定的な回答の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 幼稚園の教育内容を理解してもらうように取組を工夫し、家庭・地域と連携を図る。	A
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に子どもの育ちや教育内容を、掲示物を活用しながら月2回以上発信する。 ・地域に園の活動の様子や教育内容、未就園児活動についてホームページなどで年間20回以上発信する。 ・行事後にアンケートを実施し、分析する。（年3回） 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① 毎月の保育室降園で保護者に子どもの育ちや学びを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通してドキュメンテーションを用いながら、子どもの育ちや学び、教育内容を伝えていくようにした。毎月、遊びの様子や興味をもっていること等を写真や子どもの作品を見せながら保護者に伝えた。保護者の表情を見ながら話すことで、子どもの育ちや内面の成長につながる姿、担任の思い等を、より共有することができた。 ホームページや掲示板で子どもの様子や園の教育活動を発信する。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊ぶ様子をホームページで知らせたり、園の掲示板を活用し、毎月子どもたちの製作と一緒に様々なお知らせを貼り出したりしたことで、地域の方に園の様子や教育内容を知らせることができた。 ・タイムリーに更新していくことで、園の様子や遊びの過程などがよく伝わり、子どもと保護者が話をするきっかけにもつながった。 行事後にアンケートを実施し分析する。 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会のアンケートでは「大勢の前でそれぞれ頑張っている姿を見ることができて感動しました。」「これまで頑張ってきた姿や、あきらめずに努力してきた姿に号泣で感動しました」等と、子どもたちの頑張りをたくさん褒め成長を感じてもらえた感想が多く、子どもたちの達成感や充実感に繋がったことが分かった。 ・作品展のアンケートでは、「全て本当に一人ひとりの個性があって素晴らしい作品でした。」「想像できないようなものを作っていて見ていて楽しかったです」等子どもの成長を肯定的に受け止めている回答が多く見られた。これまでに、降園時や園長室だより等で、遊びの過程や一人一人の育ちを伝えてきたこと、また他と比べるのではなく、子ども自身の変容を認めてほしいことを、継続して伝えてきたことが肯定的な受け止めにつながった。 ・生活発表会のアンケートでは「子どもたちみんなが役になりきっていて楽しく表現していたところ

がよかったです」「脇で待機している間も他の友達を見て落ち着いている姿に成長を感じました」等子どもたちが楽しんでいる姿や、成長を感じることができたとの回答が多かった。事前に保育室降園で、担任から子どもたちの取組について具体的に知らせたり、園長室だよりで「できた、できなかった」ではなく一人一人の頑張りや成長に目を向けてほしいことなどを伝えたりしたことで、ありのままの姿を認めてもらい、子どもたちの今後の自信へとつながった。

小学校と合同研修会を行う。

- ・ 7月に鯉江小学校での合同研修を通して、幼児期の教育と小学校教育のつながりについて考える機会をもった。園から持参した写真資料をもとに自園の教育活動について発信し、小学校での学習活動について話を聞くことで、共通していることや、違いについて知ることができた。改めて架け橋期の大切さを感じる機会となった。

園の教育内容を伝える。

- ・ 3学期の始業式に、保護者へ向けて園の教育内容をスライドショーで伝える機会をもった。子どもたちの日々の遊びの様子を見せながら、先生方の教育的意図をもった働きかけや、今後の成長につながる姿等伝えていき、幼児期に大切にしたいことや園の教育方針等、保護者の方に理解していただく機会となった。
- ・ 年に7回保育参観を行った。保護者の方が実際に遊びの様子を見たり子どもと一緒に遊びに参加したりした。参観時には、今大切にしたいこと、子どもの育ち、活動でのねらい等、口頭や紙面でも伝えていった。1年間を通して参観を行ってきたことで、「子どもの成長が感じられて嬉しい」「子どもの一人一人の発想が面白いですね」等と話をする機会もあり、子どもの育ちに目を向け、教育内容を理解してもらうことに繋がった。

取組内容①について、年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもの育ちや教育内容を分かりやすく知らせていますか」の項目についての回答は「そう思う93%」「だいたいそう思う7%」となり肯定的な回答の割合は100%であった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・ 今後も子どもの内面の成長が保護者に伝わるよう、その時を逃さず適宜個別でも伝えていく。